

インターンシップ感想文
ファーストヴィレッジ株式会社



早稲田大学 2年 藤澤厚太

これまでの3ヶ月間のインターン活動では多くのことを学ばせて頂きました。ここでは大きく分けて以下の2点の学びについて詳しく感想を述べたいと思います。

1点目は朝会や日々の業務活動での学びです。まず朝会についてですが、毎回朝会に行く度に緊張していました。なぜなら、会議の雰囲気や緊張感や市村社長が話している時の社員の真剣さを直に感じた為です。市村社長のお話や各リーダー社員の話はとても良い経験になりました。具体的に市村社長のお話で印象に残っているものとしては「相手(お客様)のことを考えてビジネスを提案しなければ営業ではない」「業務を緊張して行わなければ甘えが生じる、給与と生産性が合わなければ切る」「上に立つ者は下の立場の者の手本となる行動をしなければならず、上の者は下の者を育成し組織を機能させることが重要である」など例を挙げきれないほど朝会で市村社長のお話をメモに取らせて頂き、現在の自分や将来の自分の為の知識として吸収し、自己成長の場とさせて頂きました。未だ全ての話を理解できたわけではないが、将来必ずわかる時が来ると感じ、インターンの朝会では将来の為の知識の蓄積でもあったと考えました。次に日々の業務活動での学びです。インターンの活動は多岐に渡り経験させて頂きました。具体的には始めにテレアポでの新規顧客の獲得を目指し、その後企業の感想と課題点について封書の差し込み文章として考える活動をしました。テレアポ自体初めて行うもので口調や抑揚のつけた話し方、コミュニケーションの取り方など営業の難しさを痛感しました。ですが、この経験は自分にとって大きなものでした。大学2年生の立場で経験させて頂き、今まで触れてこなかった営業の分野の知識が身に付き、実際に困難さを経験することで自分の価値観が広がったように感じました。業務の2つ目の差し込み文章差し込みや経営者倶楽部での経営者との対話は今まで遠い存在であった経営者の存在を近づける機会になりました。ISTENのサイト経営者の記事を見たり、経営者倶楽部で経営者と話すことを通して、経営者がどんな心情で会社を立てたのか、そしてどんな経営理念やビジョンを持ち企業経営をしているのかを知ることができてとても有意義なものでした。本当に多種多様な価値観、動機を持ち合わせている人が多い印象を受け、このインターンでなかったら、そのような経験をする事はなかっただろう

と考えました。インターン生の立場で自分の名刺を持ち、実際の経営者と話すことが出来るのは他のコンサルティングの会社でも不可能なのではないかとも思いました。

2点目は社会に出るという厳しさを学びました。朝会では市村社長が社員に向かって強い口調で指導している姿を多く見受けられました。今は学生の身であるため、指導されることはほぼなく、長期のインターンで実際の会社の現場を体感するのは初めてであったため、社会に出るとこのようなことは当たり前になるのだなと実感しました。つまり、学生と社会人の違いを思い知ることになりました。また先程も述べましたが、営業という職業の難しさを体感することになりました。テレアポを始めた時には100件に1件は取れると聞いていたのですが、自分の技量が足りず中々アポイントを取ることはできませんでした。他にも社会に出る者は社会全体を知る必要があると感じさせられました。企業の事業は物価や債券価格、行政の動向まで影響を受けるものであるため、それらの知識が不足していると社会人にはなれないと危機感を感じました。このように社会に出た時に必要であると思われる知識やスキルを学ぶ機会を与えてくれるのがファーストヴィレッジのインターンであると思いました。

以上の通り、数々の経験をさせて頂きました。本当にありがとうございました。